

令和元年度 とまり樹はうす 事業実績報告書

1 総括

令和元年度は、開設以降、継続した課題であった、365日の支援体制整備、緊急時の受入れ体制強化、体験利用の充実、支援内容の充実を重点課題とした。土日祝日の開所については、支援体制が確保できず今年度においても積極的な実施ができず、緊急利用の希望者延べ69名に対してのみ対応した(30年度は延べ15名)。平日を含めた今年度の利用割合は、緊急時の対応が55%、体験利用が45%(30年度 緊急時の対応56%、体験利44%)と30年度とほぼ同じという結果となった。また、体験利用の充実、支援内容の充実については、開設以降、利用登録制により、決まった利用者が利用していることもあり、利用時の個々の状況を職員が把握できており、概ね一貫した支援が行えたが、体験利用の効果について具体的に検証を行うことについては、年間を通して実施することが出来なかった。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業(併設型)
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 運営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 7) 事業開始年月日 平成28年4月1日
- 8) 職員 (令和2年3月31日現在)
管理者 1名
生活支援員16名(常勤換算1.0)

- ## 3 基本理念
- 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 事業目的

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由(冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由)により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業(活動内容)

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先(福祉サービス及び職場等)、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日課

- | | | |
|---------|--------|-------------|
| 5時00分～ | 7時30分 | 起床 |
| 7時30分～ | 9時30分 | 通所事業所、会社へ出勤 |
| 16時00分～ | 17時00分 | 利用開始 |

16時00分～20時00分	入浴
18時00分～19時00分	夕食
20時00分～22時00分	就寝

7 重点課題・目標に対する評価

1) 活動

(1) 365日の支援体制を整備する。(土日祝日の開所)

(2) 緊急対応の支援を行い、セーフティネット機能の役割を果たす

【成果と課題】

職員体制は12名から16名に増員の計画であったが、併設のグループホームも併せ、職員の増加が行えず、平日は毎日開所できたが、土日祝休日については積極的な受け入れができなかった。しかし、土日祝日に緊急的な希望があった15名に対しては全希望に応え、延べ69日の受け入れを行った。利用率は28.5%となり、平成30年度の6.4%を大きく上回った。平日を含めた緊急時の受け入れは概ね希望通り実施し、全利用の55%が緊急時対応となった。

(3) 体験利用者の支援内容を充実する

- ① 60名に登録者を限定し、希望者には最低2か月に1回の利用を保障する。
- ② 個別の支援状況を丁寧に記録し、支援内容の充実を図る。
- ③ 利用当初に食事、入浴、睡眠等に戸惑い等がみられた15名を対象に、継続して利用していることの効果について事例別の検証を行う。又事例から共通項の抽出を試みる。
 - ア、ケース記録をもとに支援経過や本人の状況の変化を時系列に整理する。
 - イ、安定的に利用ができるようになった時期に関連する内容及び傾向について検証する。
(支援方法、支援者、曜日、利用日数等)
 - ウ、事例毎に効果的な支援方法等の発見を試みる。
 - エ、ウの実践から共通項の抽出を試みる。

【成果と課題】

- ① 希望者全員に定期的な利用を保障するには、定期的な利用者数は50名程度が限界である。登録者の中で定期的な利用を希望する方が増えてきていることもあり、登録者は53名と計画より抑える形となった。年間通して、希望者には最低2か月に1回の利用を保障することが出来た。
- ② ケース記録の様式を変更したことにより、統一した記載事項(入浴、食事、就寝時刻等)を記録できるようになったが、利用時の様子や支援内容などは変更前に比べて記載が少なくなり、かえって利用者の様子はわかりにくいものになってしまった。法人より指摘があり、年度後半に職員に記載の周知を行ったが、全職員への徹底は図られず、記録は不十分なものとなった。次年度に様式の変更と記録の質の向上を図りたい。
- ③ ②に記載の通り記録が不十分なことから事例検証のためのデータが整理できず、実施できなかった。また、現場支援に追われ、計画実施に対する意識も薄かった。次年度に支援記録の充実を図ると共に、支援の検証から支援計画の作成まで実施する予定である。

(4) 利用者が安心して利用できる環境をつくる

- ① 利用前に本人、家族から状況や要望の聴取を行った上、アセスメント情報や申し送りによって、確実な情報を職員間で共有することで円滑な支援を実施する。
- ② 利用後に利用時の様子を報告し、意見や感想を聴取することで支援の評価をおこなうとともに、次回の支援に役立てる。
- ③ 一人ひとりの情報を正確に記録し、また、申し送りを徹底することで、支援の統一を図る。

【成果と課題】

- ① ② 新規利用者は5名であった。事前に家族から得たアセスメント情報や関係機関に本人の様子を確認し、職員間で共有を図った。5名とも、言語でのコミュニケーションが可能で、ニーズ等の把握はスムーズであった。また、利用後の本人や家族から聴取した意見や感想は概ね好評であったほか、特性や嗜好などの把握も進み、次回の利用に役立てることができた。
- ③ (3)の②に記載の通り、支援記録の精度には課題があるものの、引継ぎノートや口頭伝達で、職員間の情報共有は概ねできていた。前述のように支援記録の徹底により今後更に支援の統一を図っていきたい。

2) 人材育成

(1) コーディネートの担当職員

到達目標

- ① 全職員の業務スキルを把握し、個々に応じた助言、指導を行う力を向上させる。
- ② 全職員に支援方針を明確に周知し、方針に基づいた支援の実行を徹底させる。
- ③ 課題を発見し、具体的な改善策を提案する力を身につける。
- ④ 多角的な視点による、適切な判断基準を身につける。

【成果と課題】

日常業務での利用者支援や職員への指導はよく行えており、日々入れ替わる職員のコーディネーターや情報の共有についても丁寧に実施できていた。しかし、自身の考えに自信が持てなく、判断力が不足する場面も多々あった。現場責任者としての判断力の向上が課題である。

管理職候補として育成のため、経営問題についての学習を進める予定であったが、現場支援に追われる形となり、制度等の学習に留まり実務の習得には至らなかった。

(2) 生活支援員

到達目標

- ① 職員の情報共有を徹底し、一貫性のある支援を行う。
- ② 事故防止を徹底する
 - ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。

【成果と課題】

- ① 支援記録の精度には課題があるものの、コーディネーター担当職員から、利用者情報を伝達するとともに、職員間でも引継ぎ等で共有を図り、概ね一貫した支援を行うことが出来た。
- ② 2名体制で薬を確認するという、服薬管理マニュアルを遵守せず、服薬漏れと誤薬が2件あった(前年度1件)。また、無断外出をしてしまう利用者に対し、見守りが不足したこと、また、必ず施錠する扉を開放していたなどの理由により、約50分間行方不明な状態としてしまう事故があった。3件とも大事には至らなかったが、体調不良や大きな事故に巻き込まれる可能性が非常に高い案件であった。マニュアルや取り決めに遵守することにより防げた事故であったことから、継続的な指導を徹底する必要がある。

3) 経営管理

(1) 単独型事業所の運営費を試算する。また、職員配置やその他運営上の仕組みについて比較検討し、適切な事業を選択する。(現在はグループホームの併設型短期入所事業として指定を受けている)

〈具体的な取り組み〉

- ・グループホームの運営費を含めた試算を行う。
- ・運営費以外の利便性や効果など、運営上のメリット、デメリットについて、単独型事所を訪問するなどし、話を伺う。

【成果と課題】

単独型への移行の必須条件の一つに、全ての職員が短期入所事業専任となる必要があることから、現時点では要件に該当しないため、試算及び関係機関等への訪問は実施しなかった。単独型に移行するためには、まず、職員採用を進め、必要な人員の確保が先となる。

(2) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態は把握されている。緊急的な支出も発生せず、計画的な予算執行が行えた。

(3) 介護給付費収入の安定確保のため、利用率を増加する。

・目標利用率： 平日100%、休日50% (前年度：平日93%、休日7%)

【31年度目標額】

・介護給付費収入	520万	(30年度 約470万)
・都加算収入	200万	(30年度 約180万)
	720万	(30年度 約650万)

【成果と課題】

《利用率》

平成30年度	全体65.9% (平日93.1%、休日6.8%)
令和元年度	全体69.3% (平日89.2%、休日28.5%)

《給付費及び都加算収入の実績》

介護給付費収入	約540万円 (前年度 約480万円)
都加算収入	約190万円 (前年度 約180万円)
合計	約730万円 (前年度 約660万円)

利用率が前年度比で約3%増加したことや利用者の支援区分のアップ等により、前年度比で給付費収入は約60万円、都加算は約10万円、合計70万円の増額となった。また、3月はコロナウィルス流行の影響があり、計画より12万円程度の減収となった。

8 実施状況

- 1) サービス実施日数 (期間 自：平成31年4月1日 至：令和2年3月31日)
311日間 (内、土・日・祝日開設69日間)

9 利用状況

- 1) 利用実績— 実人数41人、延人数506人 (昨年度 実人数44人、延人数481人)

〈実績内訳〉

	実人数	延人数	(昨年度：実人数	延人数)
・緊急的な利用	17人	266人	(20人	270人)
・体験的な利用	24人	240人	(24人	211人)
・平日の実績	41人	437人	(44人	468人)
・土日休日の実績	8人	69人	(6人	13人)
※実人数8人は平日と休日で重複			※実人数6人は平日と休日で重複	

10 利用者状況（令和2年3月31日現在）

1) 年齢

【利用者実人数】

- ・ 18歳以上20歳未満 0名
- ・ 20歳以上30歳未満 25名
- ・ 30歳以上40歳未満 8名
- ・ 40歳以上50歳未満 8名
- ・ 50歳以上 0名

【利用者延べ人数】

- ・ 18歳以上20歳未満 0名
- ・ 20歳以上30歳未満 358名
- ・ 30歳以上40歳未満 77名
- ・ 40歳以上50歳未満 71名
- ・ 50歳以上 0名

2) 障害の状況

(1) 障害支援区分

【利用者実人数】

- ・ 区分1 0名
- ・ 区分2 2名
- ・ 区分3 6名
- ・ 区分4 10名
- ・ 区分5 16名
- ・ 区分6 7名

【利用者延べ人数】

- ・ 区分1 0名
- ・ 区分2 14名
- ・ 区分3 48名
- ・ 区分4 99名
- ・ 区分5 231名
- ・ 区分6 114名

3) 居住状況

【利用者実人数】 管内居住 35名 管外居住 6名

【利用者延べ人数】 管内居住 416名 管外居住 90名

4) 性別

【利用者実人数】 男性 30名、女性 11名

【利用者延べ人数】 男性 365名、女性 141名

11 環境の整備

事業所内外の美化と利用者身辺の整理整頓につとめ、転倒などの事故防止に努めた。

12 防災

併設している花の樹と合同で、災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。